



# 耐水ペーパー

たいすいペーパー

あ  
か  
さ  
た  
な  
は  
ま  
や  
ら  
わ  
A  
B  
C  
D  
E  
F  
G  
H  
I  
J  
K  
L  
M  
N  
O  
P  
Q  
R  
S  
T  
U  
V  
W  
X  
Y  
Z  
数字



## 概要

耐水ペーパーは、サンドペーパーの一種で、使用時に水を付けて研磨する道具です。一般的に、紙ヤスリが非耐水性であるのに対し、耐水ペーパーは水によって基材が破れたり、接着剤が溶けたりしないように作られています。水を付けて磨くことで、擦る際に生じる摩擦熱を抑え、削り屑の飛散の防止や目詰まりを少なくすることができます。また削り屑が目詰まりしても、研磨剤がはげてしまうまでは、水で洗い落として、繰り返し使用することができます。ただし磨く素材自体が水に弱い場合や吸水性のある場合（例えば木材）は、水をつけずに空砥ぎで使用します。

耐水ペーパーに使用されている研磨剤の粒の大きさは「番手」で表示されています。目が荒い 80 番、100 番あたりから、1000 番、1200 番と数字が大きくなるにつれて、研磨剤の目が細くなっていきます。使用時は、耐水ペーパーを軽く水に浸してから、普通のサンドペーパーをかける時と同様に磨いていきます。最初は目が荒いものを使用し、3～4段階くらいに分けて、中目、細目、と使っていきます。作業途中で耐水ペーパーが乾いてしまったら、再度水に浸します。金属面に使用する時には、金属をサビさせてしまわないよう、水の代わりにオイルを使用することがあります。耐水ペーパーを持って素材を磨いていく以外にも、板やガラス板の上に耐水ペーパーをしっかり貼り付け固定し、素材のほうを持って研磨作業をすると、力を均等にかかけやすくなるので、直角面や平面が出しやすく、作業が容易になります。耐水ペーパーや紙ヤスリは、ホームセンターや工具店などで入手できます。

## 木口木版での使用例



手順 1. 耐水ペーパーを固定し、版面を磨きます。最初は目の荒いものを使い、徐々に細かい目に替えながら磨いていきます。



手順 2. 版面に光沢が出てきたら、あて木に巻いた耐水ペーパーを手を持って磨きます。最後は 1500 番程度の目で仕上げます。